

令和4年度 第4回 中ノ町小学校運営協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年2月14日（火） 9時00分から10時50分まで
- 2 開催場所 中ノ町小学校 会議室1
- 3 出席委員 堀内 秀哲、渡邊 章好、齋藤 誠、瀧 幸仁、佐藤 公治、鈴木 景子、岡安 智代、木下健太郎、猿田 彩
- 4 オブザーバー 西澤 幸次郎（天竜協働センター長）
- 5 学 校 飯島美智子（校長）、泉澤 優光（教頭）、横山 和美（CS担当教員）
飛永百合子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 堀田 洋一（教育総務課）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 協議事項
 - （1）本年度の学校評価
 - （2）来年度の学校運営の基本方針
 - （3）学校運営協議会の自己評価
 - （4）その他
- 9 会議録作成者 CSディレクター 飛永百合子
- 10 会議記録

司会の教頭から、委員9人全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。議長には、齋藤会長より立候補があり、全員これを承認した。

（1）本年度の学校評価

議長の指示により、横山教諭から後期学校評価について、下記のとおり説明があった。

まず「知育」について、「身についた力」の項目では、以前より児童・保護者・教職員で評価が上がっているが、教職員の評価はまだ十分ではない。「目標の共有」が必要だ。「粘り強く取り組むこと」では、「メタ認知」が大切。子供が自らを客観的にとらえられるようICT活用をしていく。学んだことを振り返るための学習カードも使っている。学んだことを自覚し、次に生かす力へとつなげていく。「徳育」については、「自分のよいところ」の項目で全体的に少しずつ評価が下がってきている。子供が自分のよいところを見つけるのは難しいが、他の人からの褒めたコメントをキャリア・パスポートにファイルしていくことにより、自己肯定感を高めたい。「生活をよりよくするための活動」の項目では、「生き生きプロジェクト」によって、学校生活をよりよくするために活動している。学校マスコット作りも検討している。最後「体育」については、「安全」「進んで運動する」の項目で教職員の評価が下がっていた。安全面の講話や訓練、授業での運動のきっかけ作りやイベント等を企画していく。

各委員から以下のような意見があった。

- ・「安全に気をつけて生活をおくることができましたか」の項目は、教職員の評価が極端に低い。通学の様子を見ても、高学年は道路を広がって歩いている。家庭で安全な暮らしについて話す機会が少ないのではないか。（佐藤委員）

- ・「自分の良いところを見つけることができましたか」で、児童が後期に上がっていないのは、自分の目指しているところが上がってきているからなのではないか。目標を高くするのはよいことだ。この前向きな姿勢は何によってたらされているのだろうか。
(木下委員)

(2) 来年度の学校運営の基本方針

議長の指示により校長から、来年度の学校経営方針について、以下の通り説明があった。

学校教育目標は「自分の良さを知り共に未来を創る子」。目指す学校像は「多様性を生かし合い笑顔あふれる中ノ町小学校」。キャリア教育推進のために子供にわかりやすい4つの力（みんなとつながる・粘り強く挑戦する・自分を見つめる・未来を見通す）を提示している。いじめ防止については担当から説明する。コミュニティスクールの推進もしていく。持続可能なものにしていきたい。重点目標という具体的な目標がある。「知」「徳」「体」それぞれの目標に向かって主体性を育む。

いじめ防止について、生徒指導担当の大石教諭から以下のとおり説明があった。

いじめ防止の法律ができていますが、「被害者ファースト」が視点となっている。「中ノ町小学校いじめ防止基本方針」に、いじめの考え方、防止の対策、地域の役割もある。互いの関わり合いが強い地域であるので、今後も力をお借りしたい。学校では、未然防止、SOSを出しやすい土壌づくりの一つとして、困ったことを書く「にじいろぼすと」を設けている。

委員から以下のような意見があった。

- ・小学1年生の前期後期で、はしゃぎ方が違うと聞いた。小学生も高学年の方がはめをはずすのではないか。経験から限界を知ることもあるのではないか。(渡邊委員)
- ・体験的な授業は理科やその他でもある。「学校のきまり」には、学年の幅があるので余り細かい内容までは含めない。発達段階に応じて考えさせる部分もある。(校長)
- ・いじめについて中ノ町小学校に深刻な問題はありますか。(堀内委員)
- ・年に数回、保護者の方においでいただき話をすることはある。不登校につながったりけがをさせたりするような重大事案は起きていない。(大石教諭)
- ・以前、学校に勤務していたとき、いじめを止めてくれる子が多くいた。中ノ町は優しい子が多いのでその雰囲気を大事にしたい。(鈴木委員)
- ・基本方針に地域の役割があるが、具体的に何をするのか難しい。地域の人に子供が悩み等を自由に話せるシステムが将来的にできるといい。(木下委員)
- ・加害児童にもカウンセリングが必要。心の問題も解決しなければいけない。(鈴木委員)
- ・中学で学校に行けなくなる子が多い。その後引きこもりになることもある。おとなしい子の中にも心配があるのではないか。(岡安委員)
- ・昔はリーダーがいたので、弱い子を守っていた部分もある。今は皆並列になっている。
(瀧委員)
- ・放課後、集まる場が少ないので難しい。(堀内委員)
- ・来年度も熟議を重ねていく。ピアサポートという、子供が子供同士のトラブルの仲裁に入る方法もある。いじめ対応に関しては詳細を記入した手引き書も市が作成中。
(校長)

(3) 学校運営協議会の自己評価

① 学校運営の基本方針について熟議をすることができたか

- ・回数を重ねるにつれ話しやすい雰囲気になった。(岡安委員)
- ・4回の協議会では十分に理解は深まらないが、1年目としてはしっかり取り組めた。(木下委員)
- ・いじめ対策も、具体的に行動につなげたい。(猿田委員)
- ・基本方針につながる意見交換ができたことは熟議にもつながった。(堀内委員)
- ・理解は十分ではないが、いろいろ自覚させてもらった。(佐藤委員)

② 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか

- ・地域に情報を伝えていくことが不十分であった。(堀内委員)
- ・委員個々の立場に応じて周知をしていくことが役割かと思う。(瀧委員)
- ・熟議は十分ではないが、来年度へつなげていく。(齊藤委員)
- ・1年目は学校のことを知っていただくということでやらせていただいた。その意味では、熟議を進めることができたと感じている。(校長)

③ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標

- ・「はままつづくり未来プラン」は10年を見据えていた。先を見通し、たとえば令和6年に地域と一緒に何か行事を実施できたらいい。(瀧委員)
- ・積み重ねながらになるが、回数を増やしたり、事前に協議内容がわかって準備できたりすると深い熟議につながる。(堀内委員)
- ・地域が学校にかかわることができるのは限られるが、安心・安全についてなら地域は協力しやすいのではないか。(鈴木委員)
- ・次年度は初回到4回分の内容や方向性に対する見通しをもちたい。会の存在や話し合ったことを知ってもらうことを目標にしたい。(木下委員)

- ・学校支援コーディネーターとして、最近、学習・授業を支援したことは以下の通り
1年生昔の遊び体験、2年生サンリツ製菓見学、3年生フローラピアノ講話、5年生SDGs講座など。三校(和田小、和田東小、中ノ町小)のコーディネーター連絡会を実施。ボランティアの組織をだんだんつくっていきたい。(堀内委員)

(4) その他報告事項等

教頭から、「夢育やらまいか推進事業」CS加算分の予算について説明があった。使途として、外部講師・ボランティアへの謝礼、キャリア教育の目指す姿の横断幕、中ノ町小マスコット作成等が挙げられた。

司会から、次回の会議は、令和5年5月18日を予定している旨の報告があった。